

2011年6月7日

各 位

大日本住友製薬株式会社
株式会社トランスジェニック

アポトーシス抑制因子に関する共同研究について

大日本住友製薬株式会社（本社：大阪市、社長：多田正世）（以下、大日本住友製薬）と株式会社トランスジェニック（本社：熊本市、社長：福永健司）（以下、トランスジェニック）は、本日、両社及び国立大学法人東京大学（総長：濱田純一）との間で、アポトーシス抑制因子「AIM」に関する共同研究契約を締結しましたので、お知らせします。

AIM (Apoptosis inhibitor of macrophage)は、東京大学医学系研究科 宮崎徹教授の研究グループらにより、メタボリックシンドロームに関連することが見出された分子であり、バイオマーカーとしても創薬ターゲットとしても期待されます。

大日本住友製薬は、AIMに関して、2010年9月に東京大学と共同研究契約を締結し、AIMが関与する様々な疾患に対する新しい医薬品を創製することを目指して、共同研究を実施しています。

この共同研究の一部である AIM 抗体に関して、このたびトランスジェニックが参画することになり、三者間で新たに共同研究契約を締結しました。

東京大学と大日本住友製薬は、引き続き AIM についての共同研究を進めるとともに、トランスジェニックを含む三者で AIM 抗体の研究を進めます。

(ご参考) AIM (Apoptosis inhibitor of macrophage)について

AIMは、マクロファージから産生され、脂肪細胞やマクロファージ自身に作用します。脂肪細胞に蓄積した中性脂肪を分解することにより、肥満を制御したり、マクロファージの細胞死を抑制することで動脈硬化を進行させたりするなど、AIMにはメタボリックシンドロームとの強い関連が認められております。

○本件に関するお問い合わせ先

大日本住友製薬(株) コーポレート・コミュニケーション部	TEL 06-6203-1407
(株)トランスジェニック 経営企画部	TEL 078-306-0590

以 上